

避難の判断基準とタイミング

避難に時間のかかる**高齢者**や障がいのある人は、**警戒レベル3 高齢者等避難**で危険な場所から避難しましょう。



災害のおそれあり

警戒レベル4 避難指示で危険な場所から**全員避難**しましょう。



災害のおそれ高い

警戒レベル5 緊急安全確保は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。**自宅の上の階やがけから離れた部屋に移動**しましょう。



災害発生又は切迫

■**市が出す避難情報 → 必ず避難**

■**気象庁などが出す警戒レベル相当情報 → 自分の判断で避難**

警戒レベル (避難情報等)

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	市が出す避難情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況 悪化	自らの避難行動を 確認	——
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	——

災害発生のおそれがある場合、2タイプの情報が出されます。市が出す避難情報に付される「警戒レベル」と気象庁や県が出す防災気象情報に付される「警戒レベル相当情報」です。「警戒レベル」はとるべき避難行動を住民の皆様に促す情報です。「警戒レベル相当情報」は住民の皆様の自主的な避難行動の参考となる状況情報です。それぞれの情報が出るタイミングは同時になるわけではありません。「自らの命は自らが守る」意識をもって、危険を感じたら迷わず避難しましょう。

※1 必ず発令される情報ではありません。

※2 「災害切迫」や「危険」という表現は令和3年11月時点での情報であり、変更される場合があります。

## 警戒レベル相当情報 (防災気象情報)

気象庁等が出す情報			
雨の情報(警報等)	河川の情報 (指定河川洪水予報)	キキフル (危険度分布)	
5 相当	大雨特別警報	氾濫発生 情報	災害 切迫※2
4 相当	土砂災害 警戒情報	氾濫危険 情報	危険※2
3 相当	大雨警報 洪水警報	氾濫警戒情報	警戒 (警報級)
2 相当	大雨注意報 洪水注意報	氾濫注意 情報	注意 (注意報級)
1	早期注意情報 (警報級の可能性)	——	——

# 避難の考え方(風水害・土砂災害)

自らの判断で避難行動を～危険を感じたらすぐ避難しよう～

近年、台風や大雨等で逃げ遅れた人が被害を受けるケースが多くあります。特に局地的な集中豪雨では、市からの避難情報が間に合わない場合もあるため、危険を感じたときには自らが判断し、避難行動をとる必要があります。風水害では、事前に気象情報等を入手することができるため、正しい情報を入手することと**早めに避難行動をとる**ことがとても重要です。

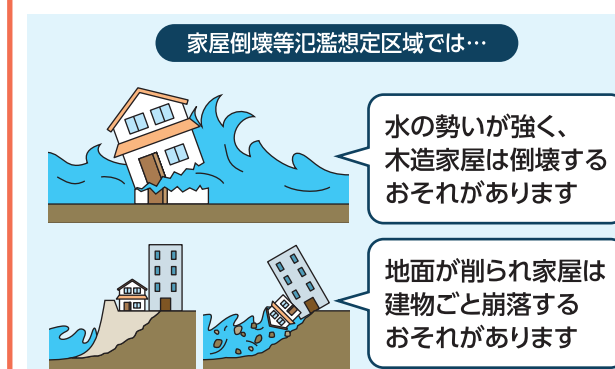
## 1. 屋内安全確保・垂直避難

土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。

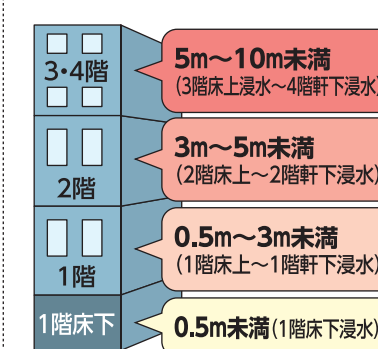
「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です



①家屋が流失・倒壊するおそれがない



②浸水深より居室は高い



③水がひくまで耐えられるだけの水・食料などの備えがある

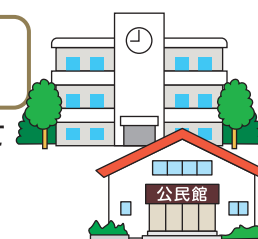


※①家屋倒壊等氾濫想定区域(P61、62)や②浸水継続時間(P63、64)で確認してください。

## 2. 立ち退き避難・水平避難

市が指定した避難場所

「常時携帯品や非常持出袋」を持っていく。(P15、16参照)



安全な親戚・知人宅

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。  
※所在地のハザードマップで安全かどうか確認しましょう。



安全なホテル・旅館

避難には事前予約と宿泊料が必要です。

※所在地のハザードマップで安全かどうか確認しましょう。



土砂災害や浸水の危険性がない安全な場所で、一時的に車の中で過ごす「車中泊」も選択肢の一つです。

※豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。